

第12期旭陵留学生の熊澤萌里さん(南山大学2年生)より近況報告をお届けします。

・留学から約3年経った今思うこと…

旭陵留学でアメリカへ飛び立ったあの日から約3年が経ちました。この3年間は本当にあっという間で、今でもアメリカのインディアナというメジャーである、とは言い難い土地で現地の友人と、ほかの国からの留学生と、そしてホストファミリーと楽しく暮らした日々を昨日のことにように思い出すことができます。高校3年生のあの時に留学に行ったからこそ「いま」の私がいるのだと確信を持って言うことができます。正直大学入学前、私は3年生で留学に行ったことは入試に不利だったのではないかと考えたことがありました。なぜなら第一志望の大学にいけなかったから。ですがそんな思いは入学してすぐに消えました。ユニークな友人、熱いパッションを持つ学生、国籍や性別、そして言語にとらわれず語り合える仲間に出逢えたからです。日本語で話すときもあれば突然英語に切り替わって語り合うときもあります。(笑) 自分の意見や想いが1番伝えやすい言語を使うんです。聞いている側からしたらきっとおかしい状況だと思います。でも今ではそれがとても生きやすく、心地よいです。高め合える仲間が周りからこそ私は「学ぶ」ことができます。学ぶことが楽しいと思っています。きっと留学をしてなかったら今の友人とはここまでの仲になれていたとは思いません。



オープンキャンパスでのボランティアにて

・新たなチャレンジ



ソロモン諸島での集合写真

次に先日私が経験した「世界青年の船」についてお話ししたいと思います。きっと青年の船、と聞いて多くの人が「何それ？」と思うかもしれません。これは内閣府が主催する18歳から30歳の世界中の人が対象の国際交流事業です。高校3年生の時に西山先生から勧めていただき、そして今年の1月に参加しました。日本から船で120人の外



かけがえのない仲間

国人と120人の日本人と共にパラオ、オーストラリア、そしてソロモン諸島、をまわってきました。毎日が刺激的で本当に濃厚でした。船の中では運動会などのイベントを企画したり、環境問題、各国の労働環境や政治、宗教や性などについて、海や夜空を見ながら語りました。(もちろんパーティーも!) 約1ヶ月半の海の上での生活は終わりましたがここで得た人との繋がりは一生消えません。今後はこの繋がりをもとに、より多くの人と関わりながら自分の興味の幅を増やし、生きていきたいと思っています。

こういった経験が「いま」できているのも、あの留学があったからです。当時から今まで私をサポートしてくれている多くの方に感謝しています。人生の中でやり残したことが無いように、そして人を幸せにできる人になれるように学び、あそび、生きていきます。

国旗の前での一枚。たくさんの国の人たちがいる船の中で「小さな地球」を感じながら生活でき幸せでした。

